

大阪 か、せ、い

令和8年号
編集・発行
令和8年4月6日
大阪借星学園高等学校
教育後援育友会
〒544-0021
大阪市生野区勝山南2丁目6番38号
TEL (06) 6716-0003 FAX (06) 6716-0009

大空を翔るペガサスのように 高校生活をもっと自由に楽しく！



理事長
太田 明弘

令和八年の新学期を、希望あふれる新入生をたくさんお迎えして開始できることを大変嬉しく思います。今年は丙午（ひのえうま）の年にあたりますが、皆さんには天空を駆けるペガサスのように、自由で楽しい高校生活を本校で体験されるよう期待いたします。

高校時代の3年間は、義務教育として受けてきた中学時代とは異なり、それぞれの個性や自主性が尊重される教育課程となります。また、大学や実社会とつながる大切なステップともなります。押し付けられる学習から解放される反面、自分の将来を見据えて、学ぶべきことを学ぶという自覚性が問われることにもなります。大阪借星学園で、どのような力を身につけたいか、それぞれの目標を定めることをお勧めします。

本校の教育理念の基本は生徒一人ひとりに秘められた可能性を大きく伸ばすことにあります。そしてその可能性とは、学力だけでなく、芸術、音楽、文化、スポーツなど広い領域に及びます。自分のやりたい領域でしっかりと力を伸ばしていけるよう頑張ってください。本校はそれぞれの目標達成のために全力でサポートしていくことを約束します。

いま世界は人工知能、つまりAIが人間社会全域において大きな力と影響力を及ぼす時代となりました。既成の職業の多くはAIによって失われるといわれています。反面、人間によってしか担えない仕事はこれからは不変です。AIによる新たなルネッサンスが起きているとも言えそうです。

このような状況を受けて、大学入試も個性尊重の傾向が強まり、一般入試に加え、総合型選抜入試が中心となりつつあります。総合型選抜入試では、論文力や人物像も高く評価されます。ですから、自分の個性と能力を生かして、一芸に秀でる努力を行うことはとても有効といえます。在校生すべての皆さんに、希望を持って、志望校にチャレンジすることを期待します。

最後に、高校教育において最も大切なことのひとつに「共に学ぶ」ということがあります。学習は一人でもできますが、集団の中で、共に学び、体験しなければ獲得できない能力というものがあります。

グループ学習で謎解きのように皆で考え、解答を探していくといった過程で、コミュニケーション力や協調力、創造力といったものが鍛えられていきます。本校での3年間で、いわば人間力をしっかりと鍛え、次のステージに上がっていきけるよう頑張ってください。

学習でもスポーツでも、おもしろくなければ、やる気は続きません。本校のいたるところに、そのようなおもしろい材料があることを期待します。本校がまず皆さんにとって、おもしろい学校であるように教職員も張り切っています。共に頑張っていきましょう。

やってみる「過程」で、 自分の軸を見つける3年間に



専務理事
太田 尚樹

新入生の皆さん、入学おめでとうございませう。また、ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。この春、新しい一歩を踏み出されたことを、教職員一同大変うれしく思っています。不安もあると思いますが、その分だけ新しい出会いや発見が待っています。皆さんの3年間で走り抜けていきます。さあ、いまの時代は大きく変化しています。チャットGPTをはじめとする生成AIによって、文章を書いたり、アイデアを出したり、何かを「それらしく」アウトプットすることは、とても簡単になりました。便利な時代です。しかし同時に、「自分は何が大切か」という問いは、ますます大切になっていきます。なぜなら、その答えはAIが代わりは見つけてくれるものではないからです。私は皆さんに、3年間のうちに一つでもいいから、「私はこれが大切だ」「僕はこれが好きだ」と言える自分の軸を見つけてほしいと思っています。そしてその軸は、完成したアウトプットの中ではなく、そこに至る「過程」の中でこそ見つかるものです。たとえば、部活動で優勝を目指す中で、仲間とぶつかり、悩んで、そしてわがやうなその時間の中で、「大人になっても、チームで働ける場所がいいな」と思ふかもしれない。文化祭の展示を仲間と一から作り上げる中で、時間を忘れて熱中している自分に気づき、「建築に関わる仕事って楽しそうだな」と思ふかもしれない。探究の授業で社会問題に触れ、「自分はこういうテーマに怒りを感じるんだ」と知るかもしれない。

どれも、やってみたらこそ出会える感情です。

だからこそ、私は皆さんに「やってみる」という姿勢を大切にしたいのです。少しでも興味があったら、ぜひ挑戦してみてください。そして、あまりピンとこなくても、一度はやってみる。その場に身を置いても構いません。過程の中で、あきらめず、気持ちよくやってみることも多いのです。もちろん、やってみれば楽しいことばかりではありません。面倒くさいこともあるし、うまくいかないこともあるでしょう。けれど、その試行錯誤の過程こそが、自分の輪郭を少しずつはつきりさせてくれます。「これは違うな」と思ふことも、立派な発見です。それもまた、自分の軸をつくる大切な材料になります。

大阪借星学園は、「おもしろい」を大切にしている学校です。しかしその「おもしろい」は、受け身で待っているのではなく、「おもしろい」を自分から一歩踏み出し、過程に飛び込み、そこで考え、感じ、悩まながら見つけていくものです。

この3年間で、皆さんの「やってみる」にあふれた時間になることを願っています。その積み重ねの先に、きっと皆さん自身の言葉で語れる「自分の軸」が生まれます。大いに挑戦し、大いに迷い、そして少しずつ自分を知る3年間にしていきたいでしょう。困ったときは、友人や先生、そして私たちにいつでも声をかけてください。皆さんの一歩一歩を、心から応援しています。

新着任の校長先生紹介



校長 吉岡 哲郎

育友会活動について



教育後援育友会会長 杉本 佳子

新入生の皆さん、ならびに保護者の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。教育後援育友会一同、心よりお祝い申し上げます。

また在校生の皆さんにおかれましては、ご進級をお喜びするとともに、保護者の皆さんには平素より教育後援育友会へ（以後、育友会）活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

育友会は、大阪偕星学園高等学校に在籍するすべての生徒の保護者及び教職員による、教育後援組織です。

生徒一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるように、サポート活動を行っております。

また、どうしても気薄になりがちな保護者同士のつながりを育友会活動に参加していただくことで、同じ年代の子どもを持つ親同士や先生方との交流ができ、学校のことをより深く知っていただくことができます。

ここで、育友会活動についてご紹介いたします。春に大阪城ホールで開催されるスポーツフェスティバルでは、頑張る生徒

たちの競技を観望し、保護者や先生方と一緒に参加できる競技に出場し、毎年とても盛り上がりがあります。

秋の文化祭では、生徒たちの模擬店に混じって育友会より毎年恒例の偕星カレーを出店しております。近年ではすぐに完売になる程の大盛況ぶりです。その他にも、育友会会員同士で企画・準備する模擬店もあり、こちらも大人気です。

学校行事に参加する活動の他にも、全保護者対象のイベントもございます。社会見学や日帰りバス旅行は毎年大好評で、昨年は淡路島方面へ行ってまいりました。

うずしおクルーズを楽しんだ後、地元食材をふんだんに使ったお料理を堪能し、参加された保護者の皆さんと共に、楽しい時間を過ごすことができました。

手作りの講習会では、『漬物グランプリ・学生の部』でグランプリを受賞されました。本校キムチ部の皆さんの監修のもと、キムチを手作りました。こちらも、毎年満員御礼のイベントです。

この他にも、年4回ほどの定例会があり、先生方より学校の子どもたちの様子についてお話をいただいたり、会員同士の意見交換や活動について話し合っております。

育友会活動に参加していただいている役員・学年委員はほとんどがお仕事をされていて、さらに子育て真っ最中の方、ご家族の介護をされている方など、ご多忙な方ばかりですが、子どもたちを思う気持ちと共に、親睦を深めながら活動を楽しんでおられます。

高校の3年間は、親として子どもに関わることができる最後のチャンスです。無理のない範囲でのご参加で問題ありません。

新入生の保護者の皆さん、在校生の保護者の皆さんも一緒に、育友会活動を通して子どもたちのサポートをしてみませんか。

育友会一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。一緒に楽しみましょう！

生徒自治に向けての取り組み

ルールメイキング

「自分の学校を自分たちで作る」をテーマに令和7年度から本格的にルールメイキングが開始しました。今までも校則改定に向けて、生徒会が中心となって先生と協議の場を持ってきましたが、令和7年度からは、全校生徒の意見を吸い上げられるようにと、クラスでも会議を開いて自分たちの学校のルールを生徒全員で考える場を設けました。「みんなが安心・安全であること」「他者視点を取り入れること」をコンセプトに、どういった学校にしたいのか、また、多様性の社会の中で何が必要で、何が不必要なのか、考えを深める機会となりました。クラスで委員長がファシリテーターを務め、グループワークで意見を出し合う姿は、楽しい中にも真剣さを感じられ、生徒たちが本気で自分たちの学校を作るんだという熱量が感じられた時間となりました。民主的な学校づくりはまだまだ始まったばかりです。これからも生徒の皆さんの力で学校を盛り上げていきましょう！主役は生徒の皆さんです！！



日本一萬博な文化祭

文化祭

令和7年度の文化祭のテーマは、同年に大阪で開催された「Expo 2025大阪・関西万博」にちなんで「日本一萬博な文化祭」でした。

令和7年度も令和6年度と同様に文化祭実行委員を有志で募り、新入生も含め多くの実行委員が集まりました。自分たちで作る文化祭の伝統が少しずつ出来上がってきているようです。

一日目は全校生徒が体育館に集まり、有志のパフォーマンス鑑賞をしました。令和7年度は初の試みとして、ステージ前を立ち見エリアとし、バンド演奏や歌唱部門などではライブ会場のような盛り上がりでした。ダンスパフォーマンスや演劇も圧巻で、観客席からペンライトで応援する姿も印象的でした。学年を超えた一体感を感じた初日でした。

二日目はビストロ・アート部門、アミューズメント部門、クラスパフォーマンス部門に分かれて様々な模擬店を準備しました。在校生たちだけでなく、来場された方々にも楽しんでもらえるよう、準備をして当日を迎えました。令和7年度は「文化祭ウィーク」を設け、準備に力を入れました。各クラスで趣向を凝らしたアートやパフォーマンス、アミューズメントを作成しました。また、サプライズゲストに大阪吉本からお笑い芸人の皆さんをお招きして、お笑いライブをしていただきました。登場と同時に歓喜の音が湧き上がり、非常に盛り上がりました。

令和7年度は生徒数も大幅に増え、文化祭来場者も年々増えてきています。偕星の熱気あふれる行事を保護者や地域の皆様に肌で感じてもらえたのではないかと感じています。生徒たちのエネルギーに満ちた文化祭でした。



1日目



2日目



社会見学

11月7日(金)秋晴れの絶好のおでかけ日和に、淡路島方面へ行ってまいりました。

うずしおクルーズでは、当日が大うずの日と重なり、普段ではあまり見ることのできないダイナミックなうずしおを見ることができて大満足でした。昼食は、地元の食材をふんだんに使った、淡路島buffetを堪能しました。先生方を交えて、終始笑いの絶えない楽しい1日に参加者皆さんと過ごすことができました。



文化教室

11月22日(土)、本校キムチ部の皆さんの監修のもと、キムチを作りました。部員の皆さん、顧問の先生方が親切かつ丁寧に指導くださり、和気あいあいとした雰囲気の中で、本格的なキムチが出来上がりました。自分で漬けたキムチは最高に美味しかったです！

修学旅行



令和7年度修学旅行は第2学年全体で久々の海外に行きました。行き先はグアムです。ここ数年は新型コロナウイルスの影響もありなかなか海外へ渡航する機会がありませんでしたが、その影響も落ち着き、海外への修学旅行を決定しました。今回は学年全体が一同に会する日を設定していただき、学年全員が一丸となり楽しむイベントを実施しました。班を1〜4班編成にし、各班が1日遅れで日本を出発して4泊5日の日程で行程を楽しみました。グアムでは日常とは異なる生活環境の中でその国の歴史や文化、様々な体験を通して知識を深めることや集団生活の中で規律を守り、公共の精神や協調性を養うことを目的としました。また、日常の喧騒を離れ、少し落ち着いた、ゆったりとしたリゾート気分を満喫し、全力で楽しむということも忘れず取り組む事ができました。

今回の修学旅行は「パシフィックアイランドクラブグアム」を拠点とした滞在型の修学旅行でした。パシフィックアイランドクラブグアムでは建物から見る景色の美しさに驚きを隠せず、興奮した様子と感嘆の声があがっていました。施設内ではプールアクティビティとして「ウォーターオリンピック」を実施し、クラス垣根を越えて協力しプレーすることで新たな絆が生まれた事だと思っています。タモン地区での散策では昼食場所を考へたり、お土産を購入する店を検索したりと現地での体験することができない経験があった事だと思っています。始めは現地の通貨を使用することもたどたどしかったですが、日を追うごとに慣れてきた様子も見受けられました。グアムオーシャンパークではバナナボートやジェットスキーを満喫しました。日本では免許がないと運転できないジェットスキーは特に面白かったと評判でした。昼食にはカレノを食べ、ビーチでビーチバレーやシュノーケリングなど自由な時間を過ごして南国リゾートを体感できたと思います。島内観光では、太平洋戦争記念資料館で当時の映像を鑑賞し、南太平洋戦没者記念碑にて平和学習を実施しました。その土地の歴史に触れることで得た学びがあったと思います。その他にも恋人岬やラッテストーン公



園などグアムの名所を余すことなく観光しました。また、現地の日常に触れるため庶民のスーパーであるKマートやマイクロネシアモールなども巡りました。そして、メインは何といてもタオタオ・タシグアムでのポリネシアンショーでした。壮大な景色を背景に繰り広げられるショーは圧巻のパフォーマンスでした。また、生徒達もショーに参加させていただき、学年全体が一体となった貴重な時間を全員で共有できたことは今回の旅の一番の思い出になったのではないのでしょうか。楽しい時間はあっという間に過ぎて帰国の日がやってきました。両手にはスーツケースとスーツケースに入りきらないほどのお土産を持ち、帰国の途に就く準備をしてグアムを離れました。

今回の修学旅行では「安心・安全・楽しむ」ということを教員、生徒全員が意識して取り組む事ができました。保護者の皆様方をはじめ、支えて頂いたすべての人々のおかげで無事に修学旅行を実施できたことを心から感謝いたします。生徒たちにとっては、一生忘れることのできない思い出が心に刻まれたことだと思います。



令和7年度体育系クラブ
優秀成績

令和7年度も日々練習に励んでいる成果を発揮し、素晴らしい戦績を残してくれました。

令和7年度 全国大会戦績

自転車競技部

全国高等学校選抜自転車競技大会
出場



令和7年度 近畿大会戦績

柔道部

第67回近畿高等学校柔道新人大会

女子個人戦 出場
女子団体戦 出場



ハンドボール部

第68回近畿高等学校ハンドボール

選手権大会 優勝



ハンドボール部

第35回近畿私立高等学校男子
ハンドボール大会



バドミントン部

第72回近畿高等学校
バドミントン選手権大会 出場



● 自転車競技部 ●

2年間部員がいない状況で、4人の新入部員が入部し、自転車競技部は活動を再開し、全員が1年生のチームで1年を駆け抜けました。

その中で、湯浅大智が1年生ながらも全国選抜大会に出場を決めたことは、彼が努力を積み重ねた結果です。全国大会出場だけに満足することなく、さらに上を目指してほしいです。また、他の部員たちも彼の健闘を讃えると共に悔しいと思う気持ちを持って、次は負けない、もっと強くなるという気持ちで、努力を重ねていくことを願っています。

ほとんどの生徒が自転車競技を高校に入學してから始めています。だからこそ、チャンスが多い競技です。自らの積み重ねが結果に表れます。時間がかかることもありますが、地道に重ねた努力が花開いていくことを何度も見てきました。この先の彼らが活躍できることを期待しています。

また、保護者様含め応援してくださる方々に感謝の心を常に持ってほしいと強く思います。

これからも自転車競技部は精進を重ねて、結果に結びつけていく所存です。新入生の皆さんの参加をお待ちしております。



文化系クラブ紹介

● 軽音楽部 ●

軽音楽部は令和7年度現在で40名を超える部員が所属しているクラブです。令和6年度から高等学校軽音楽部連盟大阪に加入させていただき、少しずつですが活動の幅が広がっています。令和7年度はクラブとして初めてZepp Namba OSAKAで高校軽音フェスティバルに出場するという目標を達成しました。また、グランドサロン十三という最近話題になった映画の撮影で使われた会場で昭和名曲ライブのイベントに参加したり、東日本大震災の復興支援を目的としたチャリティコンサート（ATC野外会場）で演奏させていただいたり、様々なことに挑戦することができた1年でした。これらは全て、いつも応援してくださる保護者の皆さんや、機材の寄付や演奏交流会などのイベントに呼んでくださる他校のクラブの皆さんのおかげだと思っています。わたしたちは、今後も活動を通じて、謙虚な気持ちで学ぶ姿勢を忘れず、多くの方々や機会に感謝しながら努力していききたいと思っています。応援よろしくお願いたします。



● キムチ部 ●

令和7年度のキムチ部は、たくさんの挑戦と出会いにあふれていました。大阪成蹊大学との交流では、大学生の方々から商品開発や販売の工夫を学び、グループワークを通して自分たちの活動を見直すことができました。ラーメン店「トミオ」様とのコラボでは、地域とのつながりを意識しながら活動を進めることで、キムチを通して協働する喜びや達成感を得ることができました。また、マリマリ様とのキンパコラボでは、「若い世代にも興味をもってもらいたい！」という思いから、キムチ部オリジナル商品「X（カケル）キムチ」を使ったキンパを校内販売することに成功しました。この一年で、キムチ部は「作る」だけでなく、「つながる」活動へと成長しました。今後も多くの方々への支えや協力があるからこそ今の環境があるということに感謝しながら、責任感を持って行動することを大事にして邁進していききたいと思っています。



合格速報

進路指導部より

大学入試合格速報

北見工業大学	1名
釧路公立大学	1名
防衛大学校(1次1名含む)	2名
関西大学	7名
近畿大学	36名
甲南大学	1名
京都産業大学	5名
龍谷大学	9名
関西外国語大学	2名
京都外国語大学	4名
桃山学院大学	20名
追手門学院大学	14名
摂南大学	10名
神戸学院大学	2名

その他大学も合格者多数
3月10日現在



〈正しい進路選択をするために〉

昨今の進路を取り巻く状況において、本校においても近年、問題となつてゐるのが、「進路のミスマッチ」の問題です。これは進学だけではなく就職においても起こり得る問題です。入学あるいは就職してから、自分の思い描いていた学校あるいは職場とは違つていたという理由で、途中で辞めてしまうケースが多々見られます。このようなことが起こる原因として圧倒的に多いのが、短絡的にイメージやネームバリューのみで進路先を決定してしまうことです。

特に大学選びにおいては就職に強そうなどという理由のみで経営学部や経済学部を選択して失敗する例が見られます。確かに、経営学部や経済学部などは実際に就職に有利であるという側面があることは否めません。しかし、その学問分野の特性を予めしっかりと把握しておかないと、いざ蓋を開けてみると自分が興味をもてない苦手な学問分野であつたということになりかねません。例えば、大学の経営学部、特に経済学部では数学が必修科目となつてゐる場合が非常に多いです。ある意味、経済学などはお金の流れを扱う学問と言つてよいので、数学の素養は不可欠となつてきます。したがつて、数学が不得意であるにもかかわらず、経済学部や経営学部に進んでしまうと、必修単位が取得できず留年、あるいは最悪の場合は中途退学という憂き目に遭つてしまいかねません。

このような入学後のミスマッチを避けるためにも、進学希望者はオープンキャンパスに、就職希望者は職場見学会等に積極的に参加し、進路先の情報をできるだけ多く事前に収集しておくことが肝要となつてきます。そのうえで、進路決定は慎重に行つていく必要があります。

また、進学においてはミスマッチの少ない入試方式を選択するというのも一つの選択肢となり得ます。具体的に言うと

総合型選抜(AO)入試などでは、その学問を学びたい理由が志望理由書や面接で必ず問われるので、否が応でも進学を希望する大学・学部について熟知しておかねばなりません。

総合型選抜入試とは、かつてAO入試と呼ばれてゐた入試形態で(専門学校ではこの名称が残つてゐる)、大学が求める学生像に合致しているかどうかを見定める入試方式であり、ここでは学力だけでなく、面接、小論文、プレゼンテーションなどを通じて、受験生の個性を総合的に評価して合否が判定されます。本校でもこの総合型選抜入試での合格者が増えてきてゐるという趨勢に鑑みて、今後この方式による入試への対策を推し進めていきたいと考えています。

兎にも角にも、本校進路指導部では、生徒のみなさんの夢の実現を確実なものとするべく、ミスマッチのない進路選択をサポートして参ります。

広報委員会より

育友会広報委員として活動したことで、たくさんさんのイベントを通して、身近で子どもたちの学校での様子や成長を感じることができ、感謝しています。また、先生方や保護者同士の交流の場でもあり、私たち自身も楽しく活動することができました。

最後に、この1年間さまざまな形でご理解・協力いただきまして、誠にありがとうございました。



志星会通信

令和8年号
編集・発行
令和8年4月6日
大阪偕星学園高等学校
同窓会
〒544-0021
大阪市生野区勝山南2丁目6番38号
TEL(06)6716-0003 FAX(06)6716-0009



同窓会会長
竹下 浩樹

陽春の候、皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。同窓会を代表し、大阪偕星学園の新たな仲間となった皆様を心から歓迎いたします。

大阪偕星学園の校名に込められた人（生徒）は皆、星であり、生徒一人ひとりの個性を大切に、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていきたいという精神は、時代が移ろう中にあっても偕星が大切に守り続けてきた価値です。

学びとは学習、知恵を得ることだけにとどまらず、同級生、先輩、教員と関わり、考えを交わし自らを省みることで、はじめて深まりを持ちます。

在学中の経験は必ずしもすべてが、順風満帆とは限りません。しかし、試行錯誤の中で、培われた思考力と人間関係こそが、卒業後の人生において自信となり、支えとなってくれるはずで、私たち卒業生もまた、この学園で得た学びと縁に支えられ、今を歩んでいます。

皆さんと共に過ごす教職員の指導は

手厚く、親身であり、私が在籍した四十数年前と変わることのない大阪偕星学園の伝統となっていることを、卒業生として誇らしく思います。

どうか偕星学園の3年間を通じて自らに問いを立て、考え抜く力を養い、仲間とともに歩む喜びを知ってください。「星」が見いだせることを願っております。

私も同窓会には、これからも皆さんの学びのびと充実した学園生活が送れるよう環境づくりをサポートしていく所存です。新入生の皆さんの偕星での成長を見守れること、これに勝る喜びはありません。

創立一〇〇周年に向け、同窓会といえども、更にネットワークを広げ、母校発展と地域社会貢献の一翼を担いたいと考えている所存です。

新入生の皆さん、今日の感激を忘れず、高校生らしさをもって悔いのない、楽しい3年間を過ごしてください。

最後に偕星の皆さんの発展と、皆様の活躍をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。今後とも同窓会へのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

活躍するOB / 卒業生

大阪偕星学園の新入生の皆さんへ

多田 憲伸 先輩



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

私は大阪偕星学園の卒業生で、ABCテレビ「おはよう朝日です」エレクトーン奏者の多田憲伸です。

長かった受験期間も終わりほっとしているのもつかの間、新たに高校生活が始まります。希望や期待、少しの不安も抱えながらのことと思います。

私は大阪偕星学園で「自分が心からやりたい事を見つけた」ことを大切に3年間を過ごしました。幼い頃からエレクトーンが好きで、中学3年間もかなりの力をそこに注いでいました。中学3年生の時にはコンクールで良い成績を残すことができて、エレクトーンに関しては充実させることが出来ました。その分、勉強がおざなりになってしまい、悪い点数、成績を取ることが当たり前になってしまっていました。

少し話は変わりますが、高校からは義務教育ではありません。中学校までは自分のやりたいくない事もこなさなければならぬ

場面があり、皆さんも経験したと思います。しかし、高校からは違います。強い言い方をすると学校を辞めたいと思うと辞めることができます。ということは、自分のやりたい事をとことんすることが出来ます。私は、好きなエレクトーンはもちろんのこと、大学に行って音楽を勉強したいという目標があったので、そこに到達するためにこれまで苦手にしていた「勉強」にも力を注ぎました。

皆さんにも心からやりたい事を持つていける方はいらっしゃいます。勉強、スポーツ、遊び。大阪偕星学園にはやりたい事をサポートしてくれる環境が整っています。思うままに努力してみてください。

やりたい事を明確に持つてない方もいると思います。私はこの偕星でそれを見つけたことができたと思っています。少し前に触れましたが、私は苦手に勉強に力を注ぎました。苦手なのに力を注ぐことができた理由は担任の先生のおかげです。分からないところがあれば様々な教え方をしてくださり、勉強を楽しいと思えるようになりました。

勉強面以外にも、高校から先の進路についてや日常の悩みなど、親身にお話をしてくれました。素晴らしい先生方がここにはいらつしやいます。やりたい事がないんですがという相談をしてみても良いと思います。色々なお話を聞いてるうちにやりたい事が見つかってきます。

やりたい事が見つければ、あとは努力するのみです。やりたい事があれば努力することも簡単です。夢や目標を持つて3年間を過ごしてみてください。

皆さんにとって高校生活が素晴らしいものになりますように願っています。

